
ばか + 泥棒 = ？ ？

はな子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ばか＋泥棒Ⅱ??

【Nコード】

N7444H

【作者名】

はな子

【あらすじ】

ばかで熱血＋泥棒Ⅱこんな風になりました！！というお話です。かなりアバウトでスミマセンッ。(小説書くのはお初なんでアドバイスをじゃんじゃん下さいッ。)

1 番

私は水野あいと言います。

今日もしつかりと6：30に起床し、

英字新聞を片手に珈琲のブラックとクロワッサンを食べて
優雅な1日のスタートです。

……。ってなことをした事は一度もなくて上の事は名前以外嘘っ
ぱちです。

あと中学生デスから英字新聞なんてどこで売ってるかも知りません
よ。

さて、いつも通り9時が過ぎてもまだ寝てました。

いやいや、起きてはいるのですけれども起き上がるのは面倒な日っ
てございません??

私は毎日それなんです。

いつも通りボーっとしてると『ピンポーン、ピンポピンポーン』

「は?! うっせえな。人がのんびりしてるって時によオ」

(注：私は女です。)

あッ。いかんいかん、人を待たせてしまっ……。

「よっこらせ」¹と立ち上がったのはいいものの

急に立ち上がると目眩が・・・

それでもめげない！！わけない。

この寝るの大好き人間が布団からやっと立ち上がったのに
また倒れちゃったらもう立ち上がれるわけないじゃん。

とか変な理屈並べてまた寝ようと思う。

「あッッッ！お客さん！！！！！」

急に思い出してドカドカ急いで階段をおりて行く。

インターホンのカメラで外を覗いてみるけど誰も居ない。

「帰ったんか、悪いことしてもうたな。」とションボリして階段をあがる。

でもまた布団を見つけると元気百倍！！

「さあ、寝るぞ♪」とウキウキしてたのも束の間。

枕元に洗濯物がドツチャリ用意されていた。

その上には書置きで

『ゴメン！お母さんに頼まれてた洗濯物を干す時間がなかった！！代わりにあいが干しといて。By姉』と書いてあった。

「!?自分でやらのやつたら引き受けないよ。」

猫背気味になりながら重い、重々しい洗濯物を
ベランダに持っていった。

[illegible]

すいません、中途半端な所で区切っちゃいます。

小説書くのは初めてなんで、アドバイスとかとても欲しいです。

読んでくださりありがとうございましたm(^ ^)^m

2番 運命??の出会い

「家」の玄関前

「おしッ！ここはインターホン鳴らしてもでて来なかったから留守って事やね。」

とかなんとか言いながら玄関前で妖しく微笑んでいる身長低めのめっちゃ童顔のかわいい男の子がいた。

「さて。お仕事だ」

と言うと玄関をガチャツと開ける。

「鍵開けっぱなしじゃん、もう困るな。こんな家があるから入りたくなるんじゃない」

変な言い訳を言いながら靴を脱いで家に上がっていった。

コイツのお仕事というのは泥棒だった。

っていうか留守の家を狙うから空き巣ですな。

「さて、俺の名前は中山タツキ。他の人からは怪盗ルパン

・・・と言われたいな」と思っている。

まず狙うのは棚！！大抵の家はこういう所に貯金通帳やら

現金やら置いとくんだよね。」と誰に説明するでもなく独り言を言う。

「おwww！あつたあつた。現金GET」さて、もう帰らねえとな。

「

タツキは部屋をキョロキョロと見渡しながら玄関へ向かった。

そこへ丁度あいが空になった洗濯物力ゴを持って階段をおりてくる。

1・2・3。ぱちッ 2人の目が合った

・・・。「はッ!??誰やねんアンタ」と先に叫んだのはあいの方だった。

「うわッ。やべエ!!!!」と後ろを振り返りながらさけんだのはタツキだった。

慌てて玄関を開けて外へ出ようとする。

そこへ階段を勢いよくおりてきたあいが勢いそのままタツキの背中へ飛び蹴り!!!!!!

タツキはその場にうずくまった。

2番 運命??の出会い(後書き)

かなり細かく区切っちゃってますなア。*笑*

次からはもう少し長くします!!

頑張ります!!!

読んでくださってありがとうございますm)。m

3番 バカ〃良いやつ

ぐわッ！！タツキは物凄い勢いで飛び起きた。

まだ背骨が痛いみたいで背中をかるくさすっている。

あいのあの跳び蹴りを受けてから、もう1時間が過ぎようとしていた。

あいはタツキがイキナリ起きちゃったもんだから軽くビックリしている。

あいは気を取り直して「んで、あんた誰??」とちよつとキレ気味に聞いてみる。

するとマヌケ面でぶっ倒れていた男は素直に答えた。

「えつと・・・。名前は中山タツキ。一応泥棒してます」だって。

・・・はア?!泥棒!!!!そんなのが私の家に何の用!?

本気でそう思った。

あゝ。いかんいかん、泥棒なんやから気を引き締めていかんと!!!!

つてか警察とか親とかに電話しなくて良いんだろつか。

親ぐらいにはしとくか。

電話♪電話♪

電話の受話器を握った。

「あッ。ちよつと待つて!!警察には電話しないで!!!!!!」
ん??何か必死だな。

そうだ!!!!今誰も居なくてやることもないし話相手になってもら
うかッッ♪

ちなみに、あいがここまで泥棒相手に舐めた態度でいるのは

タツキが気絶していた間に紐でグルグル巻きにしていたからだ。

「何で電話しちゃいカんの。何か理由あり？」

タツキは少しうつむくと口を開いた。

— 実は・・・。

俺が付き合っている彼女、実は裏でヤクザと繋がってて彼女はアイツ等と手を切りたいがってるのにアイツ等はそれを許さなくて・・・。

今まで世話してやったぶん金払えって言うてきやがるんだ！！！！
請求された金額はともじゃないけど俺の給料じゃ払えない。

だからこんな事に手をそめてしまって、うううう。
(泣)

（ちょっとオーバー過ぎたかな。こんな話信じる奴いないよな）

そう、タツキの話はまるっきりのウソ。

タツキはチラッとあいのほうをしてみる。

! ? ツ ツ ! ! ? ! ! ! ! ? ? ? ! ? ? ! ? ? ! ?

とてつもなく驚いた。あいは泣いていた。

「うゝ・・・。しっかり彼女とヤクザとの縁をぶった切つてやろ
うとしてたんやな。」

自分からしたくて泥棒なんかしてたわけでもないんやな。それは

心が辛かったろ

う。そんな小っこい体して、彼女と自分と2人分の運命を背負つとんのやな。

頑張つとったな。 うっう っうゝ（泣）」

タツキは自分の身長をバカにされたことを突っ込む余裕もなかった。まさかこんな嘘っぱちの話を信じ込んでくれるとは思わなかったのだ。

「よしッ！！タツキだったっけ？飯食っていきな。まともな仕事に就いた時に

元氣と力が出るように。あと、腹が減ってたら頭が働かんだろッッ??

炒飯ぐらいしかできないけど食えることは食えるから大丈夫！！」

。『飯食っていきな。』なんでそんな事言っちゃったんだろう・・・。

言った後に後悔した。あつ、今私は台所にて炒飯の製作中です。

いや、普通なら『製作中』じゃなくて『クッキング中です』と言うのが妥当なんだろうけど

私の場合はね・・・ほら、少ゝゝゝしだけ料理が苦手な人っているじゃないですか、

それなんですよ、私。

どうする?! どうするよ 私。

あゝ。こういう時にライフカードって便利なんだろうな。

今めっちゃ欲しい。多分私が今世界一ライフカードを求めていると思う。

とりあえず材料!! ニンジン、卵、ピーマン、肉は何を使えば良いんだろ??

・・・ウィンナーで良いか。あとは、ん?? コレ何だろ。長ネギだ!!

入れても良いんだろっか? まあ 死にはせんだろう

おしツ!! 頑張るぞww!!!!!!!!!!

3 番 バカ〓良いやつ（後書き）

ライフカード・・・クレジットカード会社のCMで使われているカード。CM中ではオダギリジョーさんが悩んだ時の切り札として使われている。

読んで下さりありがとうございましたm（、、）m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7444h/>

ばか + 泥棒 = ??

2010年10月12日03時29分発行